



神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

2020-2021年度 第31週報 No. 2141 2021年(令和3年)5月28日 第2141回 例会記録 6月4日発行

本日〈6月4日〉のプログラム

- ◆ 斉唱 「君が代」「奉仕の理想」
- ◆ 献立 週替わり弁当
- ◆ 卓話 「こども食堂の現況について」
 子どもの未来サポートオフィス 代表
 米田佐知子 様
 (紹介者 加藤 仁昭 会員)



写真提供 小池 将夫

司 会 友添 辰哉 副幹事

会長報告 山本 芳弘 会長

・岸根公園花壇花植え実施の報告

点 鐘 山本 芳弘 会長

幹事報告 田口健太郎 幹事

・『RAC2020-2021年度地区研修協議会および学友会設立総会のご案内』が来ておりますので、回覧致します。

斉 唱 「手に手つないで」
ソングリーダー 西山 潔 会員

日 時 6月20日(日)

地区研修協議会・卒会式 12:20～15:00

学友会設立総会 15:20～17:00

四つのテスト 茂木 知子 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

◎例会変更のお知らせ

*横浜鶴見北ロータリークラブ

6月3日(木) 休会

6月10日(木) 休会

6月17日(木) 休会

ゲスト紹介

李 受倫 様(ゲストスピーカー・米山奨学生)

2020-2021年度 RI 会長 ホルガー・クナーク



ロータリーは機会の扉を開く

第2590地区 ガバナー 吉田 隆男

会 長	山本 芳弘	会 計	白井 康夫
会長エレクト	小山市 康	副 会 計	渡邊 淳
副 会 長	赤堀 和人	S A A	佐藤 勝彦
副 会 長	植田 清司	副 S A A	古澤 一憲
幹 事	田口 健太郎	副 S A A	月山 勇
副 幹 事	友添 辰哉	クラブ会報	池田 広樹

例会日 毎週金曜日 0:30～1:30 PM (第5金曜日 6:00 PM)
例会場 ホテルキャメロットジャパン
URL <http://www.kanagawahigashi.com/>
E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

事務局 ホテルキャメロットジャパン内
 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
 TEL: 045-314-3900 FAX: 045-314-3555
創立記念日 昭和51年5月29日

誕生日祝

赤堀伽寿一 会員 (5月30日)



5月28日	7件	17,000円
本年度累計		1,649,870円
年度目標進捗状況		-19%

二つの故郷を持つということは、

米山奨学生 李 受倫 様



出席報告

横溝 亘 出席委員長

会員総数	51名	(30+21)名
出席会員数	41名	(26+15)名
出席率	91.30%	
ゲスト	1名	ビジター 0名
前回補正後	88.89%	前々回補正後 89.80%

スマイルボックス

佐藤 勝彦 SAA

- 赤堀伽寿一君 誕生日祝い、ありがとうございます。これからもよろしくお願い致します。
- 山本芳弘君 ①李さん、本日の卓話、よろしくお願いします。②先日の岸根公園の花植えにご参加の皆様、お疲れ様でした。
- 植田清司君 いつも演奏ありがとうございます。今日は森井さん、鈴木さん、お疲れ様でした。
- 西山 潔君 本日、所用にて早退させていただきます。
- 小山市康君 ①岸根公園の花植えに参加された方々、お疲れ様でした。天気も良く、気持ちの良い一日でした。②李さん、本日の卓話、楽しみです。
- 池田広樹君 岸根公園の花植えに参加致しました。楽しかったです。ありがとうございました。
- 北村大輔君 李受倫さん、花壇の花植え、お疲れ様でした。本日の卓話、楽しみにしています。



神奈川県ロータリークラブの皆さんこんにちは。韓国ソウル出身の李受倫と申します。まだ奨学生となりまもなく、ロータリークラブの皆さんと交流できる機会が多くなかったのですが、本日は皆様に私のお話を聞いていただける貴重な時間をいただけてとても嬉しく思っております。今日の卓話を通じて皆様に私を少しでも知っていただきたいと思っております。

私は人生の半分を韓国で、またその半分を日本で過ごし、国籍は韓国となりますが心の底から自分の故郷は韓国でも日本でもあると思っております。

初めて日本に来たのは5歳の頃で、その時はまだ海外という認識もなく、日本語も全くわからなかったので、ただただ日本の幼稚園での楽しい思い出でいっぱいでした。そこから3、4年ごとに韓国と日本を行き来することになり、様々な経験をすることができました。

自分が韓国人という事をとても誇りに思い、日本に住んでいる韓国人として、韓国と日本の交流に貢献したいという気持ちがありました。

韓国ではカヤグムという日本の琴と似たような楽器を習い、文化活動の少ない老人ホームに訪問して演奏をしたり、日本では韓国の伝統舞踊を披露させていただいたり、韓国の伝統衣装の韓服のファッションショーに参加させていただきました。また、日本でインターナショナルスクールに通っていた高校3年間はカンボジアにいる7歳から14歳の子供たちに、彼らが将来もっと広い世界に触れられるようにオンラインで英語を教えるボランティアをしたり、千葉の千倉というところで日本の子供たちに英語とマリンスポーツを教えるボランティアにも関わる事ができました。

入梅入りを前にした5月末の棚田の風景。田植も終え、のどかな山里の一枚です。

【写真提供 小池 将夫 会員】



大学に進学してからは、大好きなマリンスポーツの一つのセーリングをしながら、レジャースポーツとしてのセーリングの認識を広め、鎌倉市長や藤沢商工会議所、様々なオリンピックスポンサーや企業に声を掛け、およそ150人が参加したセーリングのオリンピック会場となる江ノ島のビーチクリーニングの開催にも関わる事ができました。自分の能力で些細な事でもできる事ややっていながら、様々な人に出会い、みんなと色々な経験を共有できたと言うことが、今でもどんどん新しいことに挑戦して、自分の能力を活かしていきたいという意思を強くしました。

そして、今の私に至るまでの様々な経験を重ねてきた背景となる日本という国は、私にとって韓国を継ぐもう一つの故郷です。

韓国と日本を行き来しながら、韓国人という事をとても誇りに思いながらも、日本の生活や文化また言葉を身に付けていく中、自分のルーツから離れていく気がして焦ったことや、日本社会では外国人として扱われる事にとっても疎外感を感じたりしました。この様なことがある度にインターナショナルな人材として成長するに当たって自分のアイデンティティを探したいと思い、韓国の伝統楽器や伝統舞踊を学び披露し、日本の茶道や生け花など固有の文化に触れて自分が所属感を持つということに自信をつけていきました。しかし、インターナショナルスクールを卒業して思ったことは、日本に10年以上住んではいるが、日本社会や経済への知識が浅いという事でした。そこで、私は、大学の留学先は日本にしたいと思いました。日本の大学に通いながら、日本の社会に素のまま溶け込んでみたいという冒険心が湧きました。また、経済学を勉強したいと思っていた学生として、日本経済はとても独特な特徴を持っている事が多かったので、自分のアイデンティティが韓国と日本、どちらにもある！と自信を持って言えるように、きちんと日本社会や経済について日本の大学で学びたいと思い、慶應義塾大学での留学を決めました。

日本での留学生活の終わりを迎つつある中、私が一番興味深く勉強していることはアジアの経済発展、その中でも韓国、日本そして中国の経済的パフォーマンスと役割の違いです。私が現在研究しているのは現代韓国社会の青年失業率の増加に因る社会的、経済的影響と国際的な比較を基にした根本的な解決法です。ここでその解決法のモデルとなる国が日本です。現在コロナ関連で失業率が最も高まっている中、日本がOECD会員国最低の青年失業率を記録したのに反して、韓国での青年失業率が2019年基準で凡そ3倍の差があることを疑問に思い、研究に挑みました。研究の結果、日本と韓国との大きな違いは、日本経済が比較的大きい比率で中小企業に支えられているということに反して、韓国経済がサムスンのような財閥企業によって大きく支えられていることと日本に比べて韓国が大学などの高学歴取得者の比率が高いということでした。その結果、財閥企業での社員募集の数は限られている中、高学歴者は財閥企業や年収の高い安定した職場だけを好むという要因で韓国の青年失業率はここ20年ほど高まって来ました。

ここで、日本はどういった努力を通じて今の青年失業率を得たのか、高い青年失業率の経済や社会への影響、青年失業率

が低いと言って経済的に効率良い社会であるのかななどの疑問が湧き、こう言った社会問題はその国の経済的状況、社会的要因、文化などの影響で生まれるということを学びました。

私がこのようなトピックに興味を持つ理由は、私はアジアもヨーロッパのEuropean Union(欧州連合)のように力を合わせれば経済的にも世界的にも偉大なパワーを発する事ができると思っていますからです。私の故郷である韓国と日本、そこに中国をはじめに様々なアジアの国々の共同協力があれば、アジアも国際的な舞台で今まで以上に注目され、アジアの国々の共同利益のための活動に挑めると思っています。なので、私の今後の目標としては日中韓三国協力事務局(TCS)に勤め、日中韓三国の平和、安定、経済的繁栄の促進に貢献したいと考えております。今すぐにEuropean Union(欧州連合)のような国際機関を作ることは難しいと思いますが、アジアでも期待されている3カ国、韓国、日本、そして中国が平和、安定、経済的繁栄の促進のために力を合わせることから一歩ずつその目標に近づいて行けると思っています。

そして、この度米山記念奨学生として神奈川東ロータリークラブで国際的な交流、若い世代の人材への支援、また日本の経済の一員として活動されている皆様に出会える機会をいただき、とても感謝しています。奨学生としての活動は6ヶ月ですが、活動が終わった後も皆様とも様々な思い出を作り、色んな場で交流したいと思っているので、良ければ気軽にお声掛けをお願いします。

神奈川東ロータリークラブの皆様、本日は私の話を聞いていただきありがとうございます。今後は是非とも人生の先輩でもあるロータリアンの皆様のお話もたくさん聴かせてください。

ロータリーニュース

出産ケアの改善で妊産婦と赤ちゃんを守る

ニュージーランドで出産教育に携わっていた助産師ジュリー・ドックリルさんは、「安全な出産についてモンゴルの医療従事者を指導してほしい」という依頼をワイマテ・ロータリークラブ(ニュージーランド)から受けたとき、それが実際にどのくらいの効果をもたらすのかまったく予想できませんでした。

当時、ロータリーについても、モンゴルでの高い乳児死亡率についてもほとんど知りませんでした。「たった一人でも命を救えるのなら」と活動への参加を承諾しました。

あれから8年。このプロジェクトは期待以上の成果を上げています。現在ティマルー・ロータリークラブの会員となったドックリルさんは、2013年当時、この取り組みがモンゴル全体の医療体制で採用され、妊産婦・乳児死亡率を大きく低下させることになるとは想像すらしませんでした。

ワイマテ・ロータリークラブは当初、モンゴルの村に安全な水を提供する取り組みを計画していましたが、地域社会の調査の結果、現地の地勢が井戸の掘削に適していないことがわかりました。

ほかの取り組みを模索していたとき、現地のロータリー関係者を通じて、母子の保健と安全な出産のニーズがあることを知りました。そこで、ウランバートル・ロータリークラブと協力して、出産教育のために医療従事者を研修する職業研修チームを派遣する4段階のプロジェクトを立ち上げたのです。

同僚から推薦されてプロジェクトに参加したドックリルさんは、オーストラリア、モンゴル、ニュージーランドの5人の助産師から成るチームを率いることになりました。モンゴルの大学生、助産師、看護師などの医療従事者100人以上が使う研修資料も、ドックリルさんが作成しました。

モンゴルにおける妊産婦・乳児の死亡率は下がりつつあったものの、まだ非常に高いのが現状でした。2011年、モンゴル政府は、乳児死亡の割合を新生児1,000人中15人にまで削減することを目標に掲げました。これは、2009年の同国の乳児死亡の割合が新生児1,000人中27人であったことを考えると、大きな改善と言えます。同年のニュージーランドの乳児死亡の割合が新生児1,000人中わずか5人であったのと比較すれば、モンゴルでの問題の深刻さがわかります。

死因の多くは、窒息、呼吸困難、先天性欠損によるものですが、ドックリルさんによると、妊婦への不十分なケアが真の原因であると言います。

「出産教育コースが組み入れられる以前は、妊娠中の女性たちが病院に行って身体的なチェックをするだけでした。女性たちが得られる情報もごく基本的なものでした」

そこでドックリルさんは、それまで妊婦たちに説明されていなかった情報（喫煙、家庭内暴力、栄養、運動、母乳、避妊など）に焦点を当てました。これらは、妊婦の健康においていずれも重要です。母親が健康であれば、誕生後に赤ちゃんが健康に育つ可能性も高くなります。母親の健康と生存が、赤ちゃんが2歳まで生き延びる可能性に直接影響すると、ドックリルさんは言います。

そこでチームは、身体の健康だけでなく、「総合的なアプローチ」を通じて健康問題のある妊婦が早めに支援を得られるようにしたいと考えました。「研修によって一人でも赤ちゃんやお母さんの命を救うことができたなら、それだけで成功だと思いました」

研修を受ける人たちは、通常の授業を想定してノートとペンを持参しました。しかし、モンゴル語に翻訳された研修資料（ドックリルさん作成）を受け取った後に行われたのは、赤ちゃんの人形と解剖模型を使ったインタラクティブな演習でした。

出産プロセスを遅らせる手法についてドックリルさんが説明した演習では、参加者から多くの質問が出ました。

通訳者によると、モンゴルではできるだけ早く出産を済ませるのが一般的です。しかし、分娩を早めることには危険も伴います。

「出産時に妊婦が休憩を取るのはいが悪いことではなく、健康のためには辛抱が大切であると説明しました。そのことが新鮮だったようです」とドックリルさん。学生らは、新しい考え方に前向きで、熱心に研修に参加しました。ドックリルさんはこう言います。「素晴らしい経験でした。楽しみ、笑いが飛び交

う中で、絆を深めることができました」

コースの最後には、学んだ知識の確認と、モンゴル保健相による修了証の贈呈式があります。「多くの参加者にとって、誇りと自信に満ちた瞬間」だとドックリルさんは語ります。

プロジェクトの成果、そして母子の健康におけるロータリーの取り組みに感心した彼女は、帰国後まもなく、地元のロータリークラブに入会しました。



モンゴルでの妊産婦・乳児の健康改善に尽くし、2021年の「世界を変える行動人：保健向上の推進者」として表彰されたジュリー・ドックリルさん（ニュージーランド、ティムラー・ロータリークラブ会員）

ロータリーニュース

5 / 28 お楽しみ抽選会結果報告

景品：淡い夏の思い出ケーキ

当選者：石井亜由美 会員
石川 正三 会員
伊東 英紀 会員
馬場 佳子 会員
横溝 亘 会員

次回〈6月11日〉の予定

「建築の再利用と都市の魅力」

一級建築士・博士（建築学）/東京立大学 客員研究員
角野 渉 様
（紹介者 加野 亮一 会員）